

2015年7月3日

**耳鼻咽喉科領域などで内視鏡下手術の時間短縮などに貢献  
マルチデブリッター「DIEGO ELITE（ディエゴエリート）」を新発売**

オリンパス株式会社（社長：笹 宏行）は、耳鼻咽喉科領域などでの内視鏡下手術に使われるデブリッターの新製品としてマルチデブリッター「DIEGO ELITE」を、2015年7月初旬から国内で発売します。「詰まり除去機能」を搭載したアクセサリーや、高周波機能が搭載されたブレードなどにより、手術効率の向上・時間の短縮に貢献します。

### デブリッターと内視鏡下手術

デブリッターとは耳鼻咽喉科領域における鼻副鼻腔粘膜や鼻骨など、生体組織の切除・吸引・切削に使われる治療機器です。組織を分割するブレード、ハンドピース、本体(コンソール)、吸引機、送水吸引チューブなどで構成されています。代表的な手術として内視鏡下副鼻腔手術 (Endoscopic Sinus Surgery: 以下 ESS) があり、この手術では鼻の穴から内視鏡を挿入し、モニター画面を見ながら鼻内手術を行います。例えば慢性的な副鼻腔炎 (通称: 蓄膿症) などの治療が行われています。

### ●発売の概要(国内)

販売名	発売予定日
マルチデブリッターシステム DIEGO ELITE※1	2015年7月初旬

※1 ESSを行うためには本体(コンソール)、ブレード、フットスイッチ、ハンドピース、吸引機などと組み合わせて使います。

### ●主な特長の概要

- 1 詰まり除去機能により、ブレード内の組織詰まりを迅速に解消し手術時間の短縮に貢献
- 2 高周波機能が搭載されたブレードを使用することで速やかな止血操作に寄与
- 3 先端孔付きブレードのラインナップにより簡易吸引管として、出血点の迅速な視野確保をサポート



「DIEGO ELITE」のハンドピースと  
ブレードの組み合わせ例



「DIEGO ELITE」の本体(コンソール)

当社は戦略的事業拡大に向けグループの再編を行い、2015年4月1日より、オリンパスメディカルシステムズ(株)の機能は会社分割により一部を除いてオリンパス(株)に承継されました。医療事業は「消化器科」、「外科」、「泌尿器科婦人科」、「耳鼻科」、「医療サービス」の5事業ユニットで構成されており、本 DIEGO ELITE は「耳鼻科」事業ユニットの製品です。

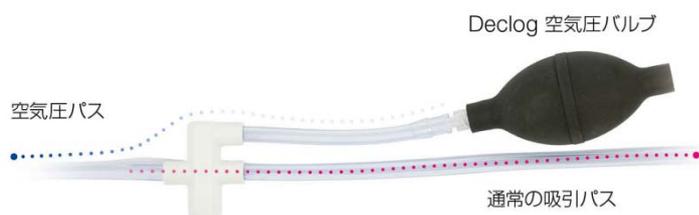
## ●市場導入の背景

患者様の体への負担が少ない内視鏡外科手術は、さまざまな手術に適応が拡大してきました。ESS（内視鏡下副鼻腔手術）もその一つで、粘膜や組織を削るブレードや、骨を削るドリルなどのパワーインストルメントを用いた ESS は 1990 年代から行われています。ESS において、デブリッターは手術効率向上・出血量低減・時間短縮というメリットがあり、日常的に使われています。しかし、薄い骨片を含む粘膜組織を分割しながら吸引していくため、機器に組織が詰まり易く、そのたびに手術が中断されることが課題となっていました。今回日本で導入する DIEGO ELITE では、その課題に対応するための機能が搭載されました。耳鼻科は当社が成長分野として注力している外科領域の一つであり、今後も患者様の負担の軽減に貢献できる製品開発を行っていきます。

## ●主な特長の詳細

### 1 「詰まり除去機能」によりブレード内の組織詰まりを迅速に解消し手術時間の短縮に貢献

マルチデブリッターを用いた手術では、粘膜と薄い隔壁を分割しながら吸引し、取り除いていきます。従来は組織がブレードに詰まってしまうと、一度ブレードを取り外して、詰まりを取り除く必要がありました。DIEGO ELITE では「詰まり除去機能:Declog 空気圧バルブ」を搭載したチューブを使用すると、ブレードを取り外す必要がなく、詰まりを解消することができ、手術時間の短縮に貢献します。



(左図)バルブの空気圧により、ブレードの中に詰まっている組織を外に排出することができます。

### 2 高周波機能が搭載されたブレードを使用することで速やかな止血操作に寄与

高周波エネルギーデバイスのバイポーラやモノポーラ<sup>※2</sup>出力ができるブレードのラインナップを用意しました。これにより従来は止血の際、別途バイポーラ鉗子に差し替えていましたが、DIEGO ELITE ではデブリッターのブレードのまま止血することが可能になりました。

※2 エネルギーの出力の方式。バイポーラ方式では双極型の電極で組織をつまみ、高周波電流を通电させます。一方モノポーラ方式では電流の流れを作るために電極と対極板が必要です。止血などのために使われます。

### 3 先端孔付きブレードのラインナップにより簡易吸引管として、出血点の迅速な視野確保をサポート

先端から吸引できるタイプのブレードでは、先端孔を活用してサラサラの血液や鼻汁をブレードのまま吸引をすることが可能です。吸引管に差し替えずに操作できるので、手術時間の短縮やストレスの軽減に貢献します。



本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。